



## Red Hat Insights 2022

# システム比較を使用した操作関連の問題のトラブルシューティング

システムの運用上の問題を特定し、レポートを生成する方法



# Red Hat Insights 2022 システム比較を使用した操作関連の問題のトラブルシューティング

---

システムの運用上の問題を特定し、レポートを生成する方法

Red Hat Customer Content Services

## 法律上の通知

Copyright © 2023 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux<sup>®</sup> is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java<sup>®</sup> is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS<sup>®</sup> is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL<sup>®</sup> is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js<sup>®</sup> is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack<sup>®</sup> Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

## 概要

このワークフローの例では、システム間の設定の違いを特定し、統計の CSV レポートを生成する方法を示しています。Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。詳細は、弊社の CTO、Chris Wright のメッセージを参照してください。

---

## 目次

第1章 概要 .....	3
第2章 SYSTEM COMPARISON および BASELINE COMPARISON サービスへのアクセス .....	4
第3章 システム比較におけるシステムの手動追加 .....	6
第4章 システムファクトのフィルターリング .....	7
第5章 システム比較出力のエクスポート .....	8
RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ) .....	9



## 第1章 概要

IT 環境では、同じテンプレートを使用して設定されていても、2 台のシステム間で動作が異なる可能性があります。Red Hat Insights for Red Hat Enterprise Linux サービスを使用すると、IT オペレーターは、システム設定を他のシステムと比較できます。

複数のシステム間の設定の違いを特定するには、次のコマンドを実行します。

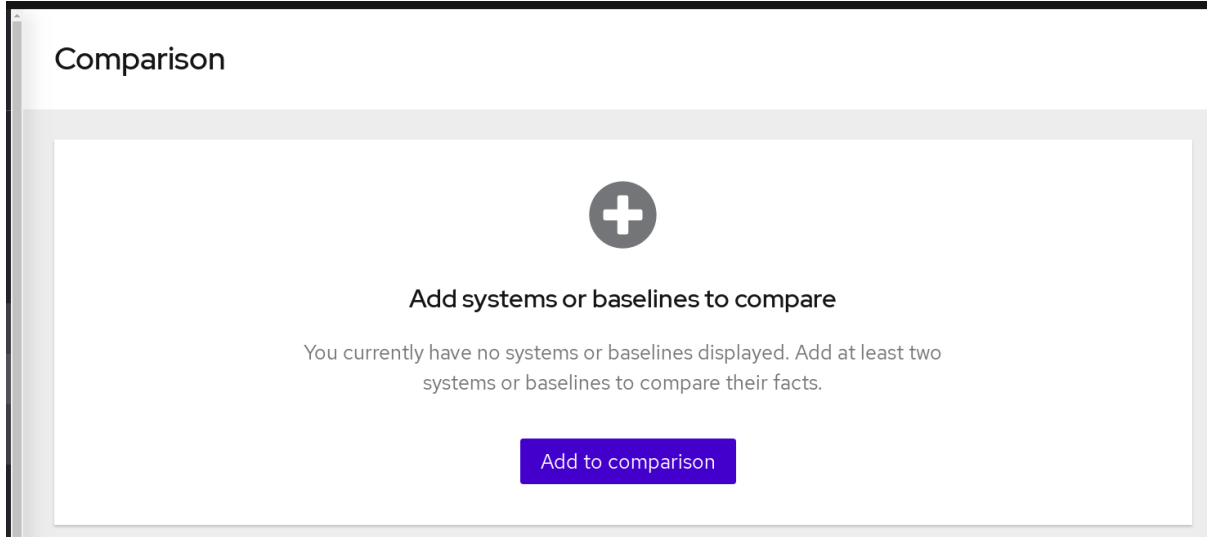
1. Red Hat Enterprise Linux サービスの Red Hat Insights にアクセスします。
2. Red Hat Insights for Red Hat Enterprise Linux 内に手動でシステムを追加し、プロファイルを表示します。
3. 状態別にシステムファクトをフィルターリングし、差分と不完全なデータを強調表示します。
4. フィルターされた出力を CSV ファイルにエクスポートして詳細にわたる分析を行います。

## 第2章 SYSTEM COMPARISON および BASELINE COMPARISON サービスへのアクセス

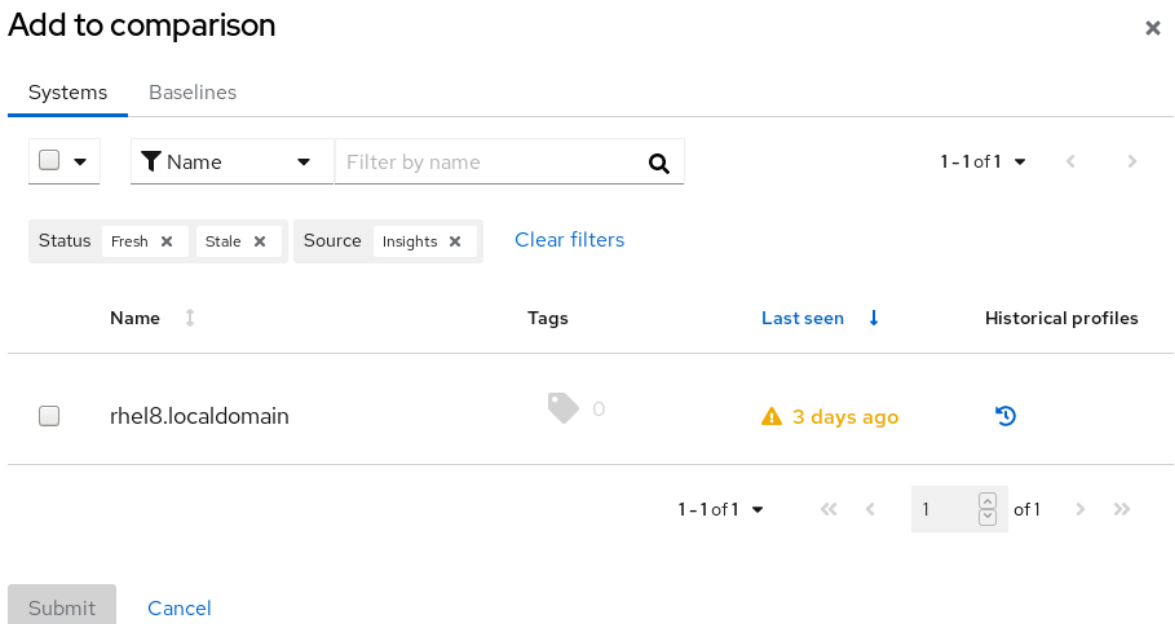
Red Hat Insights for Red Hat Enterprise Linux サービスは、Red Hat Insights for Red Hat Enterprise Linux アプリケーションの一部です。[Red Hat Hybrid Cloud コンソール](#) でこのサービスにアクセスします。

### 手順

1. [Red Hat Enterprise Linux > Drift > Comparison](#) に移動します。Comparison 画面が開きます。

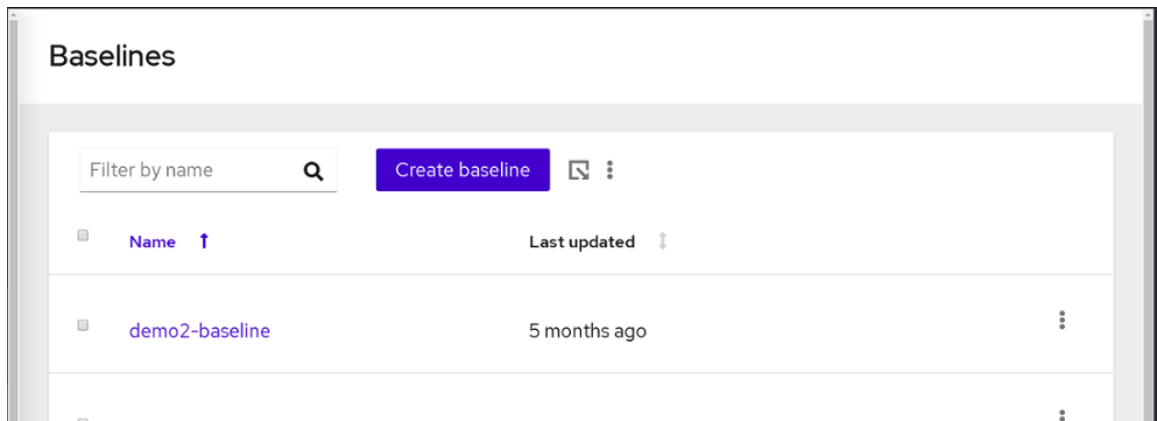


2. **Add to comparison** をクリックします。Add to compare 画面が開き、比較するシステムやベースラインを追加できます。



- **System** タブで、比較する任意のシステムを追加できます。この画面には、Insights for Red Hat Enterprise Linux アプリケーションインベントリにすでに存在するベースラインも一覧表示されます。
- **Baseline** タブで、ベースラインを作成できます。この画面では、インベントリにすでに存在するベースラインも表示されます。





3. **Submit** をクリックして、システムまたはベースラインを追加して比較を行います。

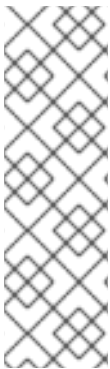
それらを追加したら、Insights for Red Hat Enterprise Linux アプリケーションインベントリー内のシステムとベースラインの事実の比較を開始できます。

## 第3章 システム比較におけるシステムの手動追加


Red Hat Insights for Red Hat Enterprise Linux サービス内で、Insights for Red Hat Enterprise Linux アプリケーションインベントリに登録されているシステムを追加できます。

### 手順

1. [Red Hat Enterprise Linux > Drift > Comparison](#) に移動します。Comparison 画面が開きます。
2. **Add to compare** をクリックします。
3. 一覧から比較するシステムを選択します。または、検索ボックスにシステムの名前を入力し、名前で検索してから、システムを選択します。
4. **Submit** をクリックします。



### 注記

- その他のシステムは、Comparison 画面上部付近にある **Add to comparison** ボタンをクリックして、いつでも追加できます。
- 同様に、各システム名の右上隅にある X マークをクリックして比較対象のシステムを削除したり、上部に位置するオプションメニュー(  )をクリックしてからすべてのシステムを削除し、次に **Clear all comparisons** をクリックして再度開始することもできます。

## 第4章 システムファクトのフィルターリング

システムプロファイルを状態別にフィルターリングし、システムの差分と不完全データを強調表示します。

1. **View** ドロップダウンリストをクリックして **Same** を選択し、同じファクトを表示します。
2. **View** ドロップダウンリストをクリックして **Different** を選択し、異なるファクトを表示します。
3. **View** ドロップダウンリストをクリックして **Incomplete Data** を選択し、情報が不完全なファクトを表示します。

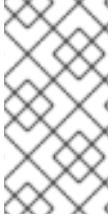
以下のスクリーンショットの例では、システム全体で違いを示すファクトでフィルターリングされたシステム比較データを確認できます。**fqdn** などの一部のファクトは、システムごとに異なることが予想されます。しかし、インストールされているパッケージは同じです。時間が経つと、一部のパッケージがシステム1でアップグレードされます。しかし、ファクトカテゴリー **installed\_packages** を拡張することで、システム2およびシステム3ではアップグレードされていません。

The screenshot shows a 'Comparison' interface with a table of facts. The table has columns for 'Fact', 'State', and three system profiles. The 'State' column shows red exclamation marks for 'Different' facts. The 'Fact' column lists 'bios\_release\_date', 'bios\_vendor', and 'bios\_version'. The system profiles are 'rhel6-chicago.example.com', 'rhel6-tokyo.example.com', and 'soundwave.infra.pnhc'.

Fact ↑	State ↓	rhel6-chicago.example.com ☆ 20 Apr 2020, 13:37 UTC	rhel6-tokyo.example.com ☆ 20 Apr 2020, 13:19 UTC	soundwave.infra.pnhc ☆ 20 Apr 2020, 14:34 UTC
bios_release_date	!	04/01/2014	01/01/2011	12/12/2018
bios_vendor	!	SeaBIOS	Seabios	Phoenix Technologies LT
bios_version	!	1.11.0-2.el7	0.5.1	6.00

## 第5章 システム比較出力のエクスポート


Comparison サービスでは、フィルターなどの現在の選択肢とともに、システム比較出力を Comma Separated Value (CSV) ファイルにエクスポートできます。



### 注記

エクスポートされた CSV レポートは、適用されているフィルターなど、システム比較の出力で現在選択されている内容をすべて保持します。つまり、WYSIWYG (What you see is What you Get) パラダイムに従います。したがって、レポートにエクスポートするネストされたファクトカテゴリー (例: **installed\_packages**) を展開する必要があります。

### 手順

1. 2つ以上のシステムの Comparison 出力画面で、**Export to CSV** アイコン (  ) をクリックし、**Export to CSV** を選択します。
2. 任意の場所に CSV ファイルを保存して、システムのエクスポートしたファクトを簡単に比較し、不一致を分析できるようにします。

## RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)

当社のドキュメントに関するご意見やご感想をお寄せください。フィードバックを提供するには、ドキュメントのテキストを強調表示し、コメントを追加してください。

### 前提条件

- Red Hat カスタマーポータルにログインしている。
- Red Hat カスタマーポータルで、**マルチページ HTML** 形式でドキュメントを表示している。

### 手順

フィードバックを提供するには、以下の手順を実施します。

1. ドキュメントの右上隅にある **フィードバック** ボタンをクリックして、既存のフィードバックを確認します。



#### 注記

フィードバック機能は、**マルチページ HTML** 形式でのみ有効です。

2. フィードバックを提供するドキュメントのセクションを強調表示します。
3. ハイライトされたテキスト近くに表示される **Add Feedback** ポップアップをクリックします。ページの右側のフィードバックセクションにテキストボックスが表示されます。
4. テキストボックスにフィードバックを入力し、**Submit** をクリックします。ドキュメントに関する問題が作成されます。
5. 問題を表示するには、フィードバックビューで問題リンクをクリックします。